

令和5年3月17日

鹿追町議会議長 安藤 幹夫 様

産業厚生常任委員長 加納 茂

所管事務調査報告書

本委員会は、下記のとおり所管事務調査を実施したので報告いたします。

記

1. 調査期間 令和元年6月19日～令和5年3月17日
2. 調査項目
 - (1) 農業振興策による人口減少対策について
 - (2) 観光振興について
 - (3) バイオマスエネルギー利活用と特産品開発について
 - (4) 福祉・医療について
 - (5) その他所管に関する調査について

3. 報告者

委員長	加納	茂
副委員長	台蔵	征一
委員	狩野	正雄
委員	川染	洋
委員	清水	浩徳

4. 調査詳細

[令和元年度]

- (1) 調査期間 令和元年10月29日～11月1日
- (2) 調査地・調査項目
 - ①愛媛県四国中央市：一貫した発達支援について
 - ②愛媛県今治市：サイクルツーリズムについて
 - ③愛媛県松山市：農福連携によるリーフレタス等の栽培及び販売について
 - ④愛媛県東温市：農福連携によるネギの水耕ハウス栽培及び販売について
 - ⑤香川県綾川町：病院経営について

(3) 報告 令和元年12月13日(第4回定例会)

[令和4年度]

(1) 調査期間 令和4年8月29日～31日

(2) 調査地・調査項目

①枝幸町：移転就農について

②美深町：チョウザメ事業について

森林公園びふかアイランドについて

新規・移転就農事業について

③士別市：いきいき健康センターについて

(3) 報告 令和4年12月7日(第4回定例会)

5. 考 察

(1) 農業振興策による人口減少対策について

令和4年度の農業生産額は237億円を超える生産額であり、鹿追町農業は順調な推移を示している。しかし、令和元年の関係機関の調査結果によると約200戸のうち60数戸が後継者がいないとのことである。さらに病気や事故、経営不振等による経営断念もあると考えると、将来的には大きく農家戸数及び農業者人口の減少が想定できる場所である。

現在まで鹿追町では、離農地を既存農家が規模拡大のため取得等をしており、農地の余剰はない状況であった。しかしながら、これまでどおり既存の農家が土地を取得できるか、町外法人等が参入してくるのか未知数である。

今般、道北の新規就農を積極的に受け入れている町の調査を行なった。両町(美深町、枝幸町)とも離農者が多く、このままでは農村コミュニティが崩壊するとの危機感から積極的に就農者を受け入れていた。現在の本町とは条件が異なるが人口減少対策として、新規就農を積極的に展開しており、本町においても早急に検討していく時期であると考えられる。

これからの鹿追町農業を担う多様な人材の確保と育成を図っていくため、農業者との対話を行い、町の情報を一元化し新規就農者を受け入れる体制づくりが必要である。道や北海道農業公社、JA鹿追町等、関係機関と連携を取りながら進めることが有効と考える。

(2) 観光振興について

しかおいジオパークは昨年2度目の日本ジオパークの認定を受け、今後も鹿追町観光の一翼を担えるものと考えられる。本町観光の要である然別湖の状況については民間ホテルが1軒休業していることで然別湖全体の観光イメージが落ちているが、再建等、関係機関が協力し実現していかなければならない。

サイクリングを活用した観光については、令和3年5月31日、日本を

代表するサイクリングルートとしてナショナルサイクルルートに「トカプチ400」が指定され、帯広市を起終点とする、十勝エリアを回る全長403kmのサイクリングルートが設定された。本町もコースに組み込まれていることから、鹿追町内のサブルートでの早期の設定により誘客を期待するものである。

道の駅は、近隣町において大型の施設がオープンしているが、膨大な建設費とその効果を検証しながら、観光のシンボリックな施設として位置付けていくため十分な議論、検討が必要である。

(3) バイオマスエネルギー利活用と特産品開発について

町内2カ所のバイオガスプラントにより家畜糞尿の処理とそれに伴う産出エネルギーの利用等がなされている。

特に中鹿追のプラントではバイオガスから水素を製造し水素自動車の導入やプロパンガス精製の実証実験を予定する等、新しい資源の構築に大きく寄与している。

余剰熱利用によるマンゴーの栽培、チョウザメの飼育、サツマイモの栽培等の取り組みについても先進地等を研究し、費用対効果により採算ベースに乗せていく必要がある。

また、これらを活用した鹿追町の特産品もあるが、ふるさと納税での返礼品になり得るような新たな商品開発が期待される。

(4) 福祉・医療について

福祉政策は、医療、児童福祉、老人福祉、障がい者福祉等々、多岐に渡っている。

今般、発達障がい等の対策を視察してきた。発達障がいの児童、生徒の増加が顕著であり、公認心理師等専門職を配置してきている自治体も多くなっている。子どもの将来と保護者の安心を担保するため行政施策が重要であると考えられる。

病院の先進地として、香川県の綾川町の国保病院を視察した。この病院は外来患者が多く占めており、土曜日は午前中診療する等、サービス向上を図ってきた効果があらわれ、極めて良好な経営水準を保っていた。

本町においても院長をはじめ職員一同が努力をいただいているところであるが、先進地等の研究を行い、本町の重要な医療施設として一層の存在感を増し、住民から選ばれる病院を目指さなければならない。

農福連携については、瓜幕バイオガスプラントにある余剰熱利用ハウスの運営において導入を検討しているとのことであり、障がい者が生き生きと活躍できるよう福祉団体との連携を期待したい。

(5) その他所管に関する調査について

農芸公園は、道道から公園まで舗装道路が整備され、全体的な整備が終了したものと思うが、芝生と樹木、花の公園として町民に親しまれるソフト事業等、方策を検討し利活用を推進していく必要がある。

商店街において空き店舗が課題となってくると思われる。商工業の衰退が予想されことから、第三者承継等、支援策について検討していく必要がある。